

「どうしたら国語の成績が上がりますか」という質問をされてとまどうことがあります。学習のやり方を教えてほしいというのです。たしかに、さまざまな学問の分野や、^aトクシユな技能を要するプロフェッショナルな道では、それぞれ「これが王道だ」「定石だ」というものがあり、私たちは指導者から学ぶ学習の大切さをよく知っています。「まなぶ」という語は「まねをする」という意味の「まねぶ」がもとになっているそうです。しかし、人間がもともと自分で学ぶ力を持っていることも、また誰でもよく知っていることです。そもそも言語を知らない幼児が母語を習得するとき、親や周囲のおとなが文法や語彙を直接教えることはできません。耳に入ってくる一つの言葉の使われ方から子ども自身が意味用法を^bスイソクし、自分の生活に応用していく中でどのように使うのかを体得しなければなりません。あたかも、科学者が必要なデータを集めて仮説を検証し結論を導くかのような作業です。これは子ども自身が問題を発見し、自ら考え、解決策を見つめる能力を発揮しているのです。学ぶという行為には大きく分けるとこの二通りのやり方がある、両方が補い合うことで効果をあげているのです。

両者とも「学ぶ」ための方法として大切なものですが、どちらの場合にも欠かせないことがあります。それは学びの機が熟するともいべき現象です。言葉を覚え始めの幼児に、「この子はなかなかしゃべらない、言葉を覚えなれないと思っていたけど、話すようになったら、とたんにいろいろな単語が言えるようになって……」という状況があります。まるで子どもの中に^cチクセキされた何かがいっきにあふれ出てくるような様子に、周囲にいるおとなは目を見張ります。このように、あることを長い間つづけていくと、そのことに習熟し、習い始めのころと比べて飛躍的に熟達したという経験をしたことがあります。楽器の^dエンソウやスポーツの技能、囲碁将棋、外国語の学習などによく見られます。例えば、ピアノの練習を始めたばかりの頃は、ひとつひとつの音を、鍵盤を確認しながら指を運んでいたのに、ふと、手元を見なくてもスラスラと弾けるようになっていたりします。こうした経験の繰り返しですが学ぶということなのだと思います。

A、みなさんは^(注4)禪宗の師弟の関係を表す「^(注5)啐啄同時」という言葉を知っていますか。

これは鳥のふ化を使ったたとえ話です。一定の期間、親鳥に抱卵された卵の中から、鳥の雛が殻を破ってまさに生まれようとするときに、固い殻の内側から「ピヨ」と鳴きながら卵をつきます。それを「啐」というそうです。ちょうどその時に、同じ場所を、親鳥が外からつつく手助けが「啄」です。両方がちょうど同時期にぴったり同じ場所をつついてはじめて雛がうまく殻を破って出てくることのできるというのです。雛が未熟な時に卵をつつき割ってしまえば中の雛は育つ前に死んでしまいます。また、せっかく雛が成熟しても卵の殻が固くて出てこれなければ、やはりその中で死んでしまうでしょう。この両者の意気投合した営みを師弟の関係にたとえたわけです。弟子がひたすらきびしい修行に打ちこみつづけている。そのうち修行が円熟し、より高次な悟りの段階にのぼりそうになる。ところがその精神的な成長の一段は非常に高く、のぼれそうではなかなかのぼれない。弟子のそのような状況を見て取った師が、悟りのきつかけとなる助言を与える。それは、あるときにはただ「喝」の一声かもしれない、ほんのわずかなきつかけです。最後の一段をのぼるかのほらないかのぎりぎりの境目、弟子が無心にそのものに向き合っているとき、今この機を逸してはならないという絶好の瞬間に、その働きかけがなされるのです。あらかじめ準備してできることでもなく、むりやりやらせることもできません。

この「啐啄同時」という言葉は、得がたい何かを獲得する過程での師弟間の強い結びつきを感じさせるため、ともすると師の手助けが最も重要であるかのように聞こえてしまいます。しかし、^(注3)実際はその逆です。内外同時につき合うとはいっても、成熟した雛が声または何らかの音を発して「殻から抜け出したい」という意思表示をしなければ何も始まらないからです。学習の場合にも、学習者の自主性がなければどうなるでしょう、指導者のどんな働きかけも無意味になってしまいます。

学生の頃、はじめてこの言葉を知った時、師弟の関係を表すというよりは、学習の好機をとらえることの大切さを示すように思われて感銘を受けました。実際に自然界でそのようなことがあるのか何となく気にかかりながら数年を過ぎて、ある理科の先生に尋ねたところ、「ニワトリの卵でも、ウズラの卵でも、温めさえすれば決まった日数できちんとふ化するし、そんな話は聞いたことがない」ということでした。B、このような科学的な説明を聞かされても、心に刻まれた思いは、まったく薄れることはありません。卵の殻を内側と外側から同時につくことで雛が誕生するという物語のような鮮明な図式がすでに私の心の中に描かれてしまっていたからです。卵のふ化の実話ではないにしても、^(注2)根も^(注1)もないというそとまでは言えないでしょう。自然界での野鳥の雛鳥の巣立ちなどは、よく似た形です。餌を採り自活する能力が雛に備わるやいなや、親鳥は雛に巣立ちを促します。時期を逃しては厳しい自然界では生きていけない。かといって時期尚早では元も^(注2)もないわけです。やはり、この言葉は「学び」の形のわかりやすいたとえと言えるでしょう。

禪宗の修行に限らず、子どもの自発と指導者の働きかけとが一致してはじめて効果をあげる学習が多いことはもちろんですが、それに加え、心身の成長段階によってその時に何を学ぶべきなのは、子ども一人一人に「この時にこれ」というものがあります。皆さんは、いつ頃から「ひらがな」や「カタカナ」のような文字の練習をはじめましたか。早熟な幼児は、ある程度環境さえ整えば、

すぐにたくさん「ひらがな」「カタカナ」を読めるようになりませんが、なかなかそれをすぐに書けるようにはなりません。実は、幼児にとつては、自分がいま見つけている紙の上の点の場所を細い鉛筆の先でちょうど押さえるという動作が難しいのです。脳の中で考えた場所に、実際に自分のからだの一部（この場合は鉛筆を持った指先）を持って行く動作には、ある程度の訓練とともに、身体、特に神経系の発達が必要だからです。C、早期教育に熱心な両親が、我が子がひらがなを全部読めるようになったので、次は文字を書かせたいと考えたとしても、手の指の動きがたどたどしい年齢の幼児では、どんなに教えても、すらすらと美しい文字を書けるようにはならないわけです。「⑤「這えば立て、立てば歩めの親心」とは言いますが、周囲のおとなが子どもに対して学ばせたいことをどんどん学ばせることは、必ずしも良いとは言えません。

だから、みなさんは自分が何かを学習するときにはもっと自信を持つべきです。ここで「自信」を持つてというのは、今の学習のやり方が正しいから自信を持ちなさいというのではありません。自分が何かを学ぼうとするとき、自分の「これを学びたい」という気持ちを感じなさいということです。誰かが「これを勉強した方がいいよ」というから勉強する、あるいは、周りのみんながやっているから同じように勉強するというのは、学ぶ対象を自分自身の問題としてとらえることはできません。自分のために自分自身の問題と向き合う中に成長につながるきっかけがあるはずは、何かを学ぶ行為は、ただ情報や知識を集め、整理するものではありません。実は、外から取り入れた情報を整理して自分のこととして問題をとらえ、納得し、思考が熟成していくという過程です。それは自己の内面で自分一人だけで行う作業の連続であり、ひたすら自分自身と向き合って行かなければなりません。「今はこのことを学びたい」という意欲を持ってこそ真剣に向き合えるものでしょう。学習に打ち込もうとする皆さんには、是非⑥そうした姿勢で自分の学びに向かつてほしいと思います。

(注1) 王道……最も正当な方法。

(注2) 定石……物事を処理するときのきまつた仕方。

(注3) 母語……幼時に母親などから自然な状態で習得する言語。

(注4) 禅宗……座禅などによって悟りの境地を求めようとする仏教の一派。

(注5) 抱卵……親鳥が卵を抱えて温めること。

問一 —— a、dのカタカナを漢字に改めなさい。

問二

A	く	C
---	---	---

 に当てはまる語の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア (A) しかし B ところが C もし)
イ (A) ところで B しかし C たとえば)
ウ (A) さて B なぜなら C つまり)
エ (A) たとえば B もちろん C そこで)

問三 —— Xとありますが、「目を見張る」という語句の文中における意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 反省して見直す イ 注意深く観察する ウ 意外なことにあきれる エ 驚き感心する

問四 —— i・iiの

--

 に当てはまる語をそれぞれ漢字で答えなさい。

問五 —— ①とありますが、「自分で学ぶ力」とはどのようなものですか。文中から三十字以内で抜き出して、最初と最後の五文字で答えなさい。

問六 —— ②とありますが、「こうした経験」と同様な経験を述べたものとして誤っているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 千羽鶴を作るのに最初は折り紙の角がうまく合わせられずに時間がかかっていたが、完成に近づいた頃には角がピッタリ合うようになり急に手早く折れるようになった。
イ 中学生になって自転車通学を始めた頃は、学校までの地理がよくわからず通学に時間がかかっていたが、友人から裏通りの道順を聞いて通学時間が一気に短縮できた。
ウ 一輪車に乗って遊ぼうとしたら思っていたよりも難しく転んばかりだったが、何日か続けているとバランスの取り方がわかってどこまでも行けるようになった。
エ クロールがうまく泳げなかったが、夏休みの水泳教室に参加して練習しているうちにタイミングよく顔をあげられるようになった。

問七 —— ③とありますが、「実際はその逆です」とはどういうことですか。学習の場合に即して三十字以内で説明しなさい。

問八——④とありますが、どのような思いが心に刻まれたというのですか。解答欄の形式に合うように文中から二十字以内で抜き出して答えなさい。

問九——⑤とありますが、その理由の説明として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 子どもの成長を待ち望むという親心が、現代の社会では時代遅れになったから。

イ 一度に多くのことを教えすぎると、子どもが学習意欲を失ってしまうから。

ウ 学習の内容によっては、子ども自身の発達を待ってしか学べないものがあるから。

エ 得意なことには個人差があり、本人の個性にあったことだけを伸ばすべきだから。

問十——⑥とありますが、「そうした姿勢」とはどのような姿勢のことですか。五十字以内で説明しなさい。

問十一 この文章は三つの部分に分けられていますが、全体の構成と内容に関する説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 最初に学ぶ方法について述べ、次に指導者と一緒に学習を進めていくことの重要性を具体例で示し、最後に学習するときの態度を述べて結論付けている。

イ 最初に学ぶことと継続することの大切さを述べ、次にその両者を具体的な例を使って説明し、最後に学ぶことの意義を述べて結論付けている。

ウ 最初に学習の二つのあり方について述べ、次にその重要な点をたとえ話を使ってわかりやすく説明し、最後に学習するときの心がまえを示して結論付けている。

エ 最初に学ぶ時の問題点を示し、次にさまざまな学習の方法を具体的に示し、最後に誰にでも通じるような学び方を述べて結論付けている。

二 次の文章は宮下奈都の小説「スコールNo.4」の一節で、「私」(麻子)が父の営む骨董品店で、両親と祖母、妹の「七葉」、「紗英」と一緒に暮らしていた中学生時代を回想している場面である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

私と七葉は滅多に喧嘩をしない。喧嘩をするような種がない。そもそもふたりとも怒りっぽい性質ではない。難を言うなら七葉は少々頑固なところがあるけれど、そして七葉から見れば私は少々意気地がないかもしれないけれど、そのせいで喧嘩になるわけじゃない。いつも一緒にいる私たちを見て、真由も未知花ちゃんも首をかしげる。仲がよすぎて気味が悪いみたい、などと言う。小学校から仲のよかった彼女たちと私は同じ地元の中学に進学した。今もいちばん親しい友達だ。でも親友と呼ぶほどではない。それは当然だろう。私には七葉がいる。

真由のところはお兄ちゃんと年がら年じゅう喧嘩しているそうだ。顔見るのも嫌だよ、なんて言ってるくせに、ほんのところはそうでもないんだと思う。だってよくお兄ちゃんのサッカーの試合を応援に行っている。

未知花ちゃんも弟としょっちゅう喧嘩になると言う。些細なことで喧嘩が始まり、些細すぎて原因を忘れてしまうのだそうだ。だから五分後にはまたふたりでふざけて笑ってるんだよね、と言う。

うちは、そのどちらとも違う。喧嘩はほとんどしない。その代わり、原因はいつもはっきりしているし、一度喧嘩になったらどちらかが謝らない限り終わらない。そうして、私が覚えていた限り、七葉が謝ったことはない。最後に必ず私が謝ることになる。原因がいつも私にあるのかといえば、そういうわけでもない。七葉と喧嘩をしている時間は苦痛で、でも謝らなければ終わらないことはわかっていて、だから謝る。喧嘩を終わらせたいから、それだけだ。どうして謝るのかと訊かれれば、そうとしか答えようがない。七葉のほうも、謝られればそれで気が済むらしく、その後はまだ拗ねたり文句を言ったりしたことはない。

私だって、喧嘩の最中は腹が立って、謝ることなど微塵も考えないし、むしろ今日こそ謝るもんかと思っている。だけど、最後はやっぱり誘惑に負ける。ごめんね、という言葉の口にする瞬間まで、喉元に意地が引かかかって脈を打っているのに、ご、と発音した瞬間、固まりが雪崩のように滑り落ち、代わりになんだか甘ったるい感じがこみ上げてくる。

③ごめんね。七葉に何を謝っているのかわからない。ただ私は酔っている。このひとことで仲直りができるという期待と、安堵と、素直にそれを口にするのできる自分のしおらしきみたいなものに。七葉も、私が謝れば素直にうなずくけれど、きつと首を縦に振った瞬間に甘く湧き上がるものに気づいているに違いない。私こそごめん、と言った瞬間に七葉の目に涙が膨れ上がる。喧嘩の間に泣いたこ

とは一度だつてないのに。私たちは、安手のクリスマスツリーの電飾みたいにぴかぴか光る感傷を満たす。そうして少しだけぎこちなく元通りを始める。

喧嘩して満たされるのは私たちで、それを厄介にするのが祖母だ。祖母は私たちが喧嘩をしているとき、いつのまにか近くまで来てじつと耳をそばだてている。そして、喧嘩の内容ではなく、どちらが声を荒げたか、手を上げないか、先に謝るのはどちらか、何食わぬ顔をして窺っている。私たちはそれをどれほどうとうとうと思つたか。夢中で喧嘩をしても、祖母の気配に気づくとどちらからともなく

A

。それはもしかしたら祖母独特の喧嘩を諫めるやり方だったかもしれない。けれど、そういうときの喧嘩は不完全燃焼の種火が残ったまま、いつまでも尾を引いた。ちゃんと最後までやらせて、と私たちは声に出さずに願つた。謝る瞬間の、あの甘く切ないドロップをちゃんと味わわせてほしかった。

一度だけ、最後までついに謝らなかつた。七葉も謝らなかつた。だから、決着のついていない喧嘩がある。もしかしたらあれが境目だったのかもしれない。違うかもしれない。^(注1)七葉が店から離れた理由を私は何かと結びつけたがつている。

店にはいろんな品があつた。壺や皿や椀、鉢、^(注2)勾玉や仏像の類、それから、何に使うのかわからないような、すすけた木片や、割れた陶器の一片などもあつた。これ、なんだろうね、なんだろうね、と言いつつながら私と七葉は小さな土器の欠片を、撫でたり、裏返したり、日に透かしたりした。そうしているうちに、その欠片が、身近な玩具みたいに親しみを帯びてきて、これをポケットに忍ばせておけばなあと考えたりもするのだ。持ち歩いてどうするわけでもない。ただ、親しいものを身につけているうれしさだとか安心感だとかに憧れただけだ。

^(注3)生成の地肌に、ところどころかすれたような雲が染め付けられた陶器の欠片があつた。それを見つけたときは、なんだかほんやりとした欠片だな、としか思わなかつた。でもどうしてだか私たちはふたりとも、割れたビスケットみたいなその欠片から目を離すことができなくなつてしまつた。これ、なんだろうね、うん、なんだろう、といつとも同じことを言いつつながら、⁽⁴⁾お互いの視線が小さな陶片の上に注がれ、そこで拮抗しているのを感じていた。

先に手を伸ばしたのは七葉だ。思わず、といった感じで陶片の肌に触れ、それをそのまま掌に包んだ。一、二、三、四、五。固唾をのんで、五、数えた。七葉は掌を開かなかつた。

⑤「なのちゃん、それ見せて」
押し殺した声で私は言った。七葉は動かなかつた。

「見せてよ」

七葉が小さく首を振る。私は七葉の掌を開かせようと、腕をつかんだ。七葉は握りしめた掌をおへその辺りに抱えるようにして丸く屈んだ。その頑なさにかつとなつて私は七葉の背を押した。身体がぐらつと揺れ、それでも七葉は顔を上げなかつた。背中をつかんで揺さぶつた。

「見せて、私にも見せて」

夢中になつて七葉の身体を揺らしながら私は叫んだ。

階段の音にも気づかなかつた。組みあつていて、はつと顔を上げたときには、祖母が怖ろしい形相で立っていた。

「何をしているの」

私は大声で訴えた。

「なのちゃんが見せてくれないっ」

七葉は屈んだままだった。私は祖母に背を向け、七葉の肩をつかんでもう一度言った。

「それ見せてつてばー」

すると祖母が言った。

「離れなさい、みつともない。店まで全部聞こえてきたよ」

「だって、七葉が」

「ほら、麻子も七葉も、離れて。七葉、手に持ってるものを出しなさい」

七葉は出さない。頑として首を振る。

「七葉のものなの？」

⑥「違ふよ、ここにあつたものだよ」

私が言うと、祖母はため息をついた。

「何を取りあつてるのか知らないけど、ここにあるのは玩具じゃないんだよ、傷つけたら終わりだよ」
祖母は七葉の手をつかんで指を一本ずつこじ開け、中から陶片を取り出した。

「こんなもの取りあつてどうするの」

雲の絵の陶片を、眉を上げて見る。少し手を遠ざけ、頭を後ろに引くようにして見る。そのとき、七葉が何か言った。くぐもった、小さな声だったからよく聞き取れなかった。

「なんだって」

祖母が訊き返したときだ。七葉はきっぱりと顔を上げて、言った。

「返して」

祖母の顔色がみるみる変わった。眉が上がり、唇がきゅっと結ばれた。

「まだ文句があるんなら、家を出ていきなさい」

涙が膨れ上がり、それがこぼれ落ちる前に、七葉は走って階段を降りていった。

私は呆気にと取られていた。七葉は、返して、と言った。祖母はそれをただの反抗だと取ったみたいだけど、私にはわかる。あの子は、陶片をほんとうに返してほしいと思ったのだ。

自分のものでもないのに、返せってどういうこと？

ひと目見て私もあの陶片に引きつけられた。だけど、返せとまでは言えない。所詮、お店のもの、父のものだから、せめてあれが売れなければいいなあ、ずっとこの家にあつていつでも好きなきときに眺められたらいいなあ、と願うくらいだ。

「麻子」

階段のほうを見ていた祖母が振り返り、落ち着いた声で言った。

「女の子の喧嘩はね、怒鳴ったり、叫んだりしたほうが負けです」

陶片のことを考えていた私は、祖母の言っていることが咄嗟に飲み込めない。

「下にいたら麻子の大きな声だけが聞こえてきたよ」

「それって、私の負けってこと？」

祖母はうなずいた。

「どうして。七葉が取ったんだよ、最後は泣いて出ていっちゃったんだよ、なのに私の負けなの？」

「そういうものだから、覚えておきなさい」

「どうして、と言いかけて、やめた。訊いても無駄だ。」

⑧

悔しかった。普段だったら泣いていたかもしれない。でも、今はそれどころではない。七葉の執着心が私を打ちのめしていた。怒鳴ったから負け、叩いたから負けなんじゃない。欲しいものをあれほど欲しいと思える、七葉の心に私は負けている。

(注1) 七葉が店から離れた理由……この喧嘩の後から「七葉」はお店に顔を出さなくなっていた。

(注2) 生成……染色あるいは漂白される前の天然の色。

(宮下奈都「スコール No.4」)

問一 X・Yの文中での意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。



問二 Aに入る慣用句として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 声を掛けた イ 声を潜めた ウ 声を上げた エ 声を揃えた

問三 B「ながら」と同じ用法のものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 昔ながらの街道が見える。
- イ 涙ながらに真実を訴える。
- ウ 左右を見ながら横断する。
- エ 知っていながら答えない。

問四 ①とありますが、「私」が先に謝る理由が述べられている箇所を文中から十字程度で抜き出して答えなさい。

問五 ②とありますが、これはどういうことですか。三十五字以内で説明しなさい。

問六——③とありますが、「七葉」に謝っている時の「私」の心情として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 先に謝ることので心が穏やかになり、妹に対して慈しむような思いを抱いている。
- イ 仲直りできることを心で願ひ、姉として先に謝っている自分自身に満足している。
- ウ 先に謝って仲直りをする姿勢を見せれば、妹も許してくれるだろうと思っている。
- エ 自分が先に謝って仲直りするべきだという責任感と、姉としての誇りを感じている。

問七——④とありますが、この時「私」はどのようなことを感じていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 二人とも欠片に興味を示し、先に手に取ろうとお互いに心の中で張り合って譲る気がないということ。
- イ この欠片になぜ二人が心を惹かれたのか、その理由をお互いに真剣に考えようとしているということ。
- ウ 二人が欲しいと思っている欠片を、どうすれば取り合いをせずにすむかお互いに悩んでいるということ。
- エ 欠片が何であるか分からず、どちらが先に答えを見つけ出せるかとお互いに競い合っているということ。

問八——⑤とありますが、この時の「私」についての説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 「七葉」が欠片を返すだろうと期待していたが、一人占めしようとしているようなので腹を立てて怒っている。
- イ 「七葉」が欠片を返すだろうと安心して見せようとする気配もまったくないので心を痛めて悲しんでいる。
- ウ 「七葉」が欠片を返すかどうか見守っていたが、返す様子もないのでこみ上げてくる怒りを抑えようとしている。
- エ 「七葉」が欠片を返してくれるだろうと信じていたが、返すそぶりもないので惜しいことをしたと悔やんでいる。

問九——⑥とありますが、この時の「祖母」の様子を説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 女の子であるにもかかわらず喧嘩をしていることをどう叱るべきか思い悩んでいる様子。
- イ してはいけないと分かりきっていることが喧嘩の原因だったことに呆れ果てている様子。
- ウ 二人の喧嘩のためにお店にある高価な商品が壊れたことが分かって困りきっている様子。
- エ 欠片というつまらない原因で喧嘩をしていることに言葉も出ないほど驚いている様子。

問十——⑦とありますが、「私」はどのようなことを不満に思っていますか。説明しなさい。

問十一——⑧とありますが、この時の「私」の心情として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の思いのままに勝手な行動をする「七葉」よりも、慎重に行動しようとする自分の方が正しいと思っている。
- イ 勝手な行動をする「七葉」より、冷静に判断して行動する自分の方が祖母に責められたことが辛いと思っている。
- ウ 「七葉」と喧嘩になった時に今回も自分から先に謝ればよかったと反省し、「七葉」に対して申し訳ないと思っている。
- エ 「七葉」のように、自分が思った通りに行動することができない自分の心の弱さに気づき不甲斐ないと思っている。

問十二 この文章について説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 短い会話を効果的に用いることで読者は作品を身近に感じることができ、「七葉」に負けずたくましく成長しようとしている頃の「私」の心情がよく伝わってくる作品である。
- イ 難しい語句や表現を用いることで読者は作品の品格や優雅さを味わうことができ、厳格な祖母や気丈な「七葉」との間で揺れ動いていた頃の「私」の心情がよく伝わってくる作品である。
- ウ 比喩表現や会話をを用いることで読者は登場人物により共感を覚えやすく、「七葉」との関わりの中で自分の心の在り方を見つめていた頃の「私」の心情がよく伝わってくる作品である。
- エ 説明的な文を多く用いることで読者は登場人物の心理をより深く理解でき、「七葉」と性格を比べながら自分の生き方に自問自答していた頃の「私」の心情がよく伝わってくる作品である。

六本松小学校の六年生である太郎くんと花子さんが先生と話し合いをしています。これを読んで後の問いに答えなさい。

【話し合いの様子】

先生 二人は「遊び」と聞いて何を思い浮かべますか。

花子さん 「楽しい」ことでしょうか。お友達の家でおしゃべりしたり、お店に買い物に行ったり……。

太郎くん 僕はゲームやサッカーを思い浮かべました。最近のゲームは友達と対戦できるのが面白いんですよ。

先生 そうですか。「遊び」にも色々ありそうですね。今回は六本松小学校に通う生徒たちの「放課後遊び」について考えようと思います。先日実施した生活アンケートの結果を見ると、気になる傾向がありました。まず、【資料1】【資料2】のアンケート結果を見ましょう。①どのようなことに気がきますか。

太郎くん 確かに思い返してみると、アンケートの通りですね。

先生 さらに、遊びの内容にまで踏み込んでよく考えてみましょう。【資料3】【資料4】を見てください。

花子さん 少しずつ問題が見えてきました。先生は遊ぶ環境について問題視しているんですね。

先生 そう。幼少期の遊びはとても重要であることが専門家からも指摘されています。次のような遊びの効果が挙げられます。

【遊びの効果メモ】

○遊びを通して身につくもの

- A 社会性・協調性・人間関係能力
- B 体力・運動能力
- C 自主性・創造性

太郎くん 遊んでいる僕らは楽しいとは思っていませんでしたが、遊びから多くのことを自然と学ぶことができるんですね。鬼ごっこ・かくれんぼ・野球・サッカー……。言われてみると、遊びの中で社会勉強をしているのかもしれない。

先生 ここからが本題です。次の【資料5】と【資料6】の全国的な調査を見てください。

花子さん 【資料5】を見ると、「遊ぶ環境が悪くなった」と感じている親が多いですね。

太郎くん 【資料6】の「子供が自由に遊べる空き地や生活道路が少なくなった」という意見が圧倒的に多いようです。③全国に公園を増やしていけばいいのに……。

花子さん 本当にそう単純なのかしら。もつとよく調べてみないと……。

先生 花子さんは慎重に考えていますね。では、私が市内の公園で撮ってきた写真をお見せしましょう。④この写真が「子供が自由に遊べる空き地や生活道路が少なくなった」ことを考えるヒントになるかもしれません。

花子さん 公園や遊びにも時代性が表れるんですね。

先生 それではこれらの調査を踏まえて、六本松小学校の生徒たちの遊びを充実させるための方法を考えてみてください。

一週間後

太郎くん 先生、現状の問題を解決できる「遊び方」を考えてきました。

先生 はい、楽しみに待っていましたよ。さあ、聞かせてください。

花子さん 名付けて「わくわく広場」です。その内容は以下の通りです。

【わくわく広場】の内容

- A 月々金曜日の放課後（16時～18時）に実施する。
 - B 学年の区別はしない。
 - C 校庭の遊具類を自由に使ってよい。
 - D 地域の大人や保護者が「見守り隊」として必ず二人ついておく。
 - E 週三回、遊びの専門家「遊びの助っ人」に来てもらい、伝統的な遊びや工作など様々な遊びを紹介してもらう。
- 「遊びの助っ人」はあくまで遊びの「紹介役」であり、生徒の自主的な遊びを助ける役目である。

先生 「面白い発想ですね。ではさっそく、校長先生や関係者に頼んで、試験的に「わくわく広場」をやってみましょう。

先生

「わくわく広場」ができて一ヶ月が経ったので、先日、生徒と保護者にアンケートを取りました。【資料7】を見ましょう。これを見ると「わくわく広場」が好評であることがわかりますね。遊びの良い効果があらわれているようです。

太郎くん

ひとまず成功したようで嬉しく思います。

先生

ただし、「質問2」の保護者の意見を読むと問題点もあるようです。どのように改善すべきでしょうか。

花子さん

少しずつ問題を解決していけば、よりよい「わくわく広場」になりそうですね。

太郎くん

【資料7】の「質問2」に対する回答を読みながら僕は良い考えがひらめきました。「わくわく広場」への参加者を増やすために、毎月、第二土曜日に、アビス福岡のプロサッカー選手（Jリーガー）を招いて、サッカー教室を開くことを提案します。先生、いかがでしょうか。

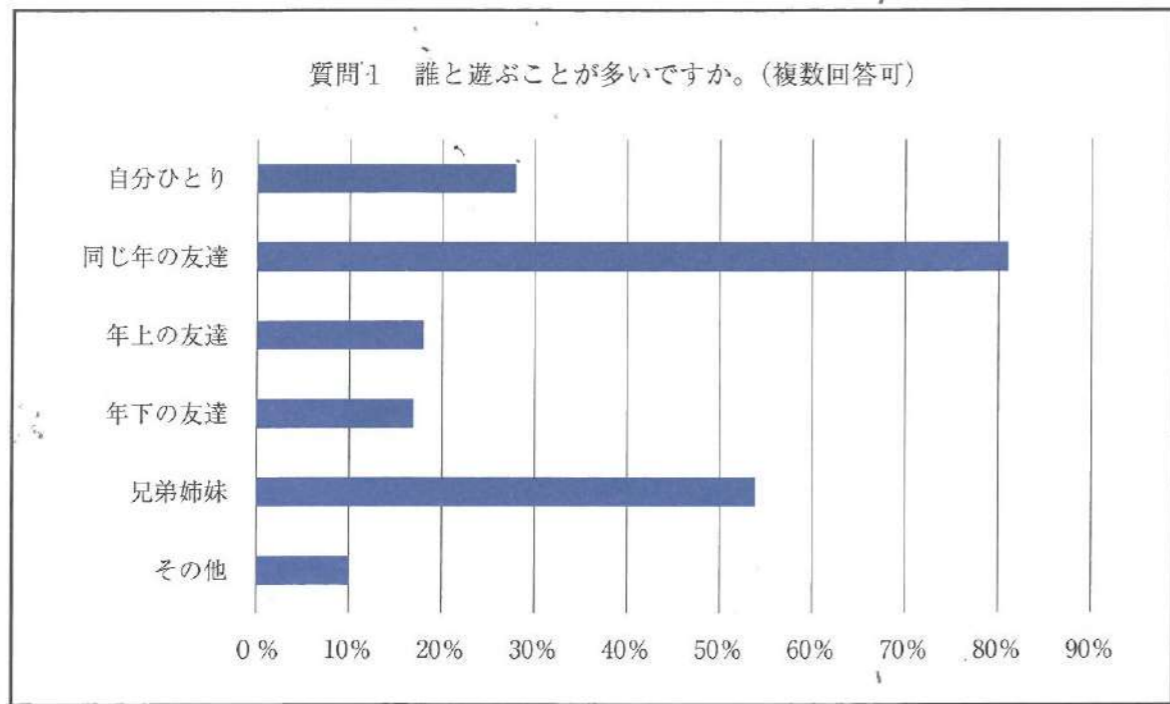
先生

ほお、注目される大きなイベントですね。実現できるか、各方面に相談してみましよう。今回の話し合いでも素晴らしい意見を出してくれた二人に感謝します。ありがとうございました。

太郎くん・花子さん

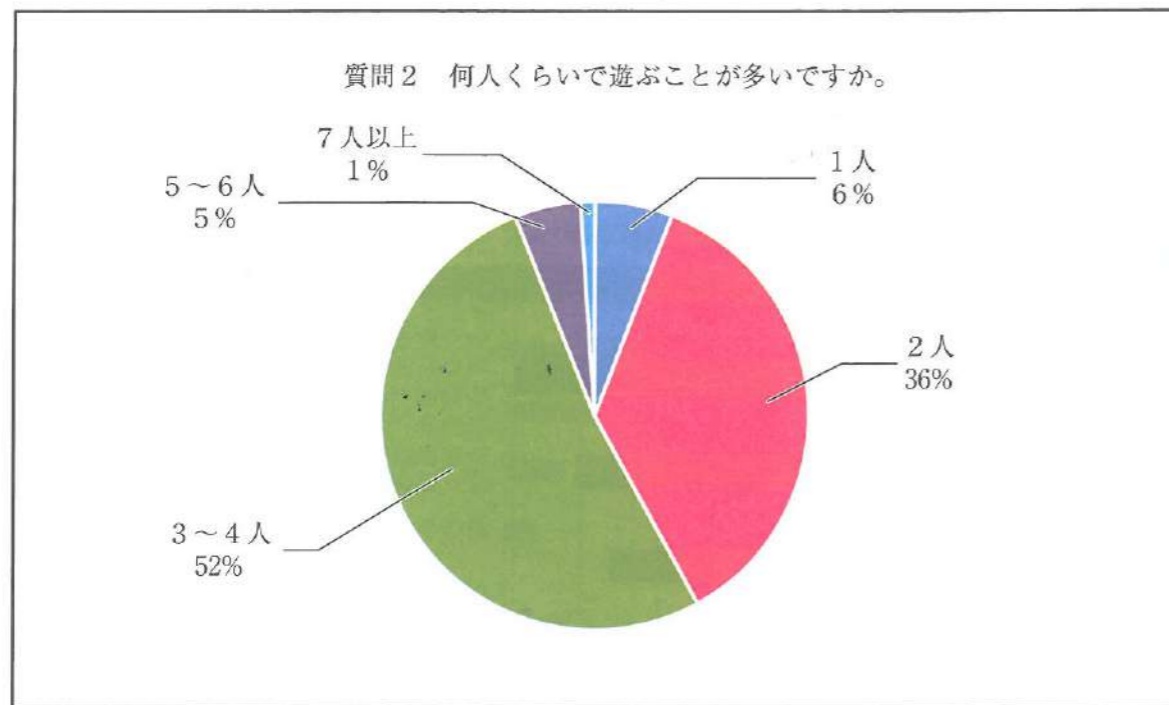
楽しく議論することができました。ありがとうございました。

【資料1】

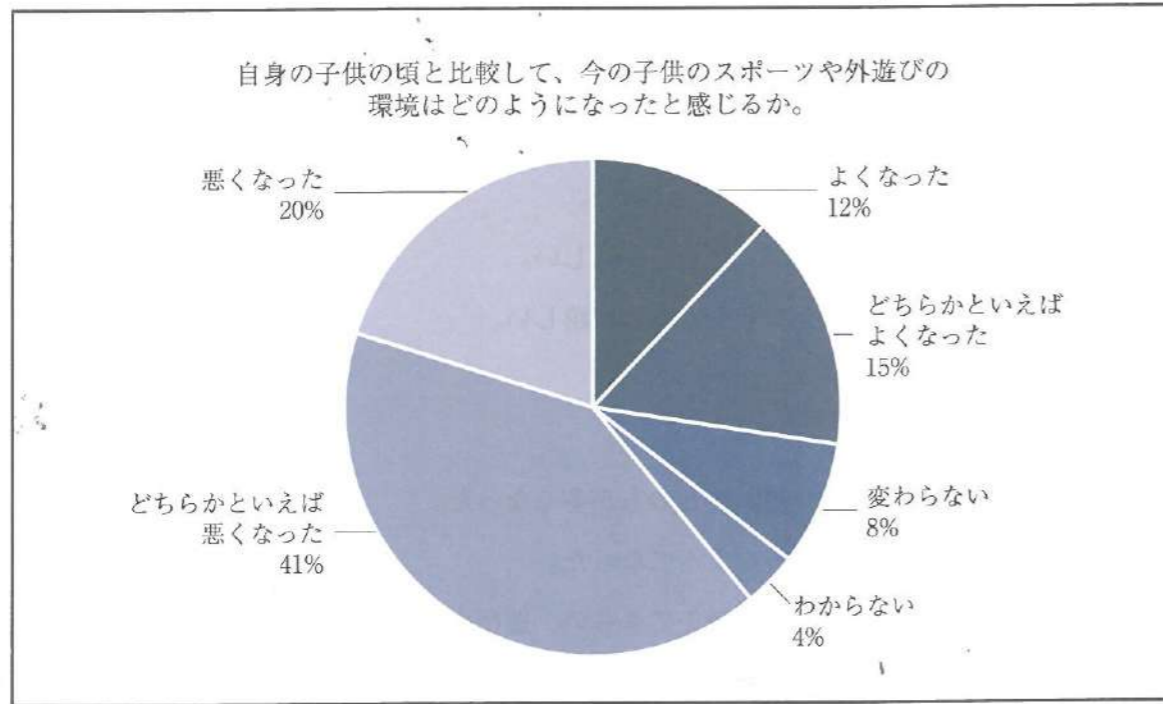


(出典)：福岡市ホームページ「こども未来局」をもとに作成。

【資料2】

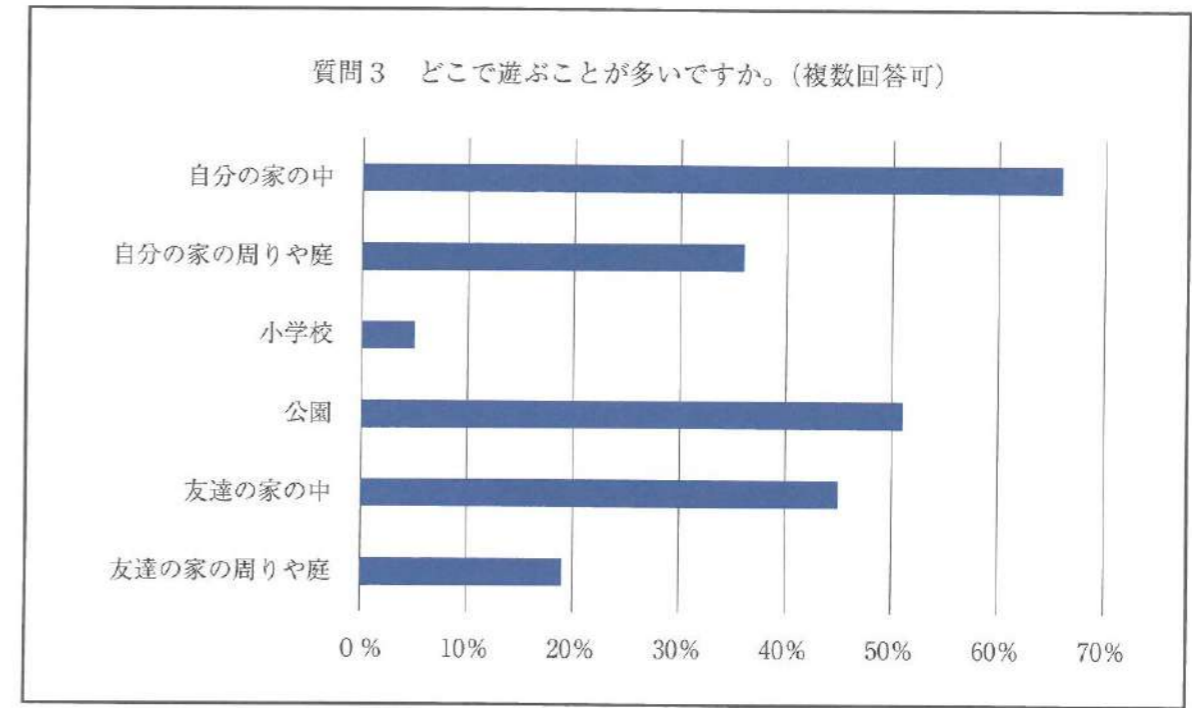


(出典)：福岡市ホームページ「こども未来局」をもとに作成。



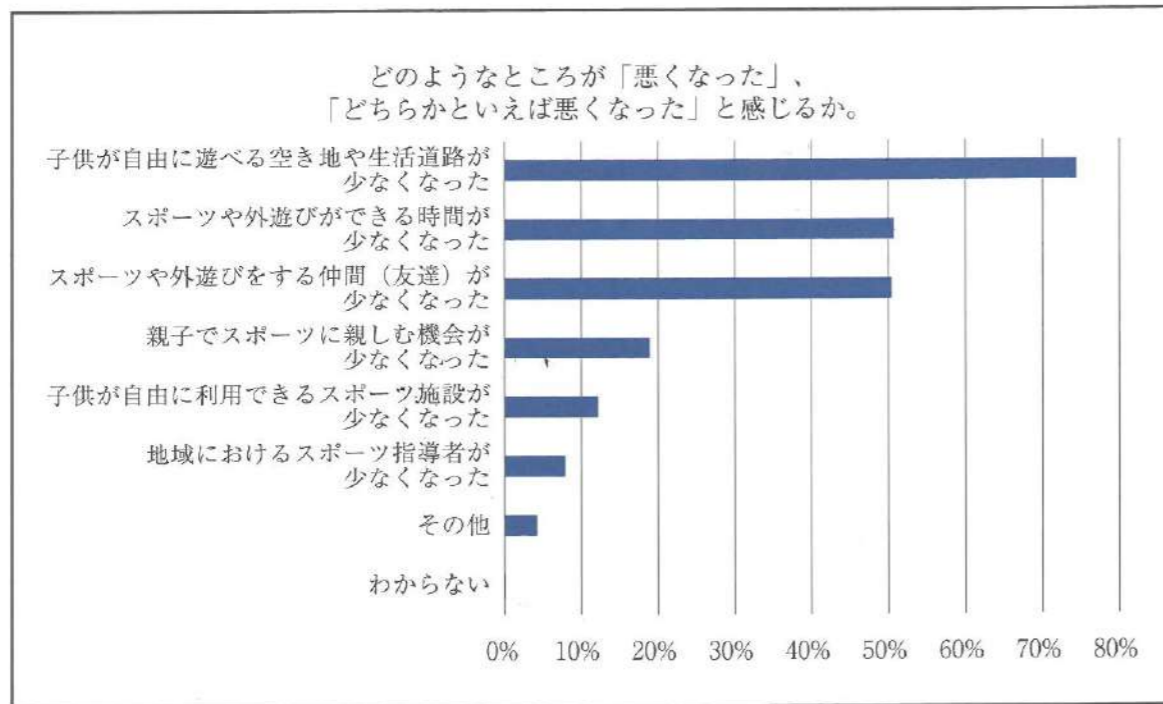
【資料5】

(出典)：文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」(平成24年度)



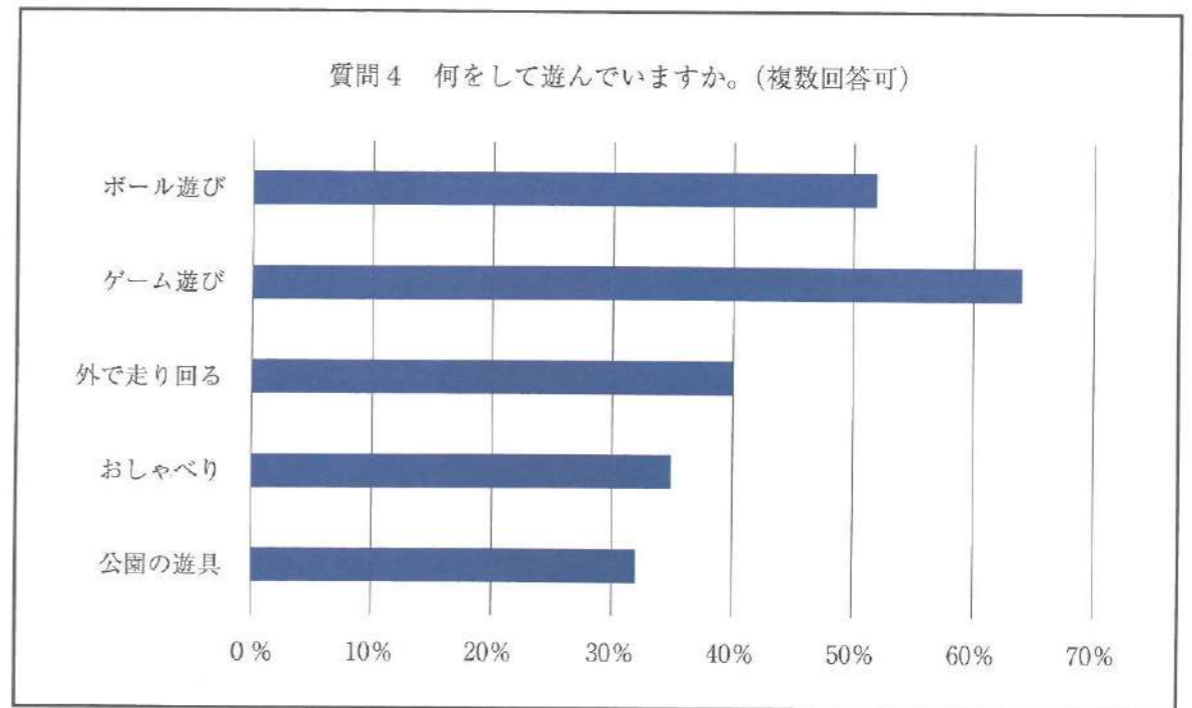
【資料3】

(出典)：福岡市ホームページ「こども未来局」をもとに作成。



【資料6】

(出典)：文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」(平成24年度)



【資料4】

(出典)：福岡市ホームページ「こども未来局」をもとに作成。

質問1 「わくわく広場」について良いと感じていることを書いてください。

(生徒の回答)

- 違う学年の子と遊ぶことができているのが面白い。
- 家の遠い友達と遊ぶことができるのが楽しい。
- 大人に色々な遊びを教えてもらえるのが嬉しい。

(保護者の回答)

- ゲームをするよりも外で遊ぶことの方が多くなった。
- (1)ものを作ることに興味を持つようになった。
- 子供では考えつかない遊びを教えてもらい、遊びの幅が広がった。
- (2)他クラス、他学年の子と遊ぶようになった。
- (3)逆上がりができるようになった。
- 大人の見守りがある安全な環境で遊べることに感謝している。

質問2 「わくわく広場」についてご意見を書いてください。

(生徒の回答)

- 球技で遊ぶには参加者が少ない。
- 「わくわく広場」の存在をまだ知らない友達もいる。
- 上手な大人に球技を教えてもらいたい。もっとうまくなりたい。
- 仲間はずれにされたり、上級生に遊び道具を取られたりしたことがある。

(保護者の回答)

- (4)子供の帰る時間が遅くなって心配である。
- (5)子供が自分で考えて遊ぶことが大事。「遊びの助っ人」は必要ない。
- 平日は習い事があるので、なかなか参加できない。土日でも開催してほしい。

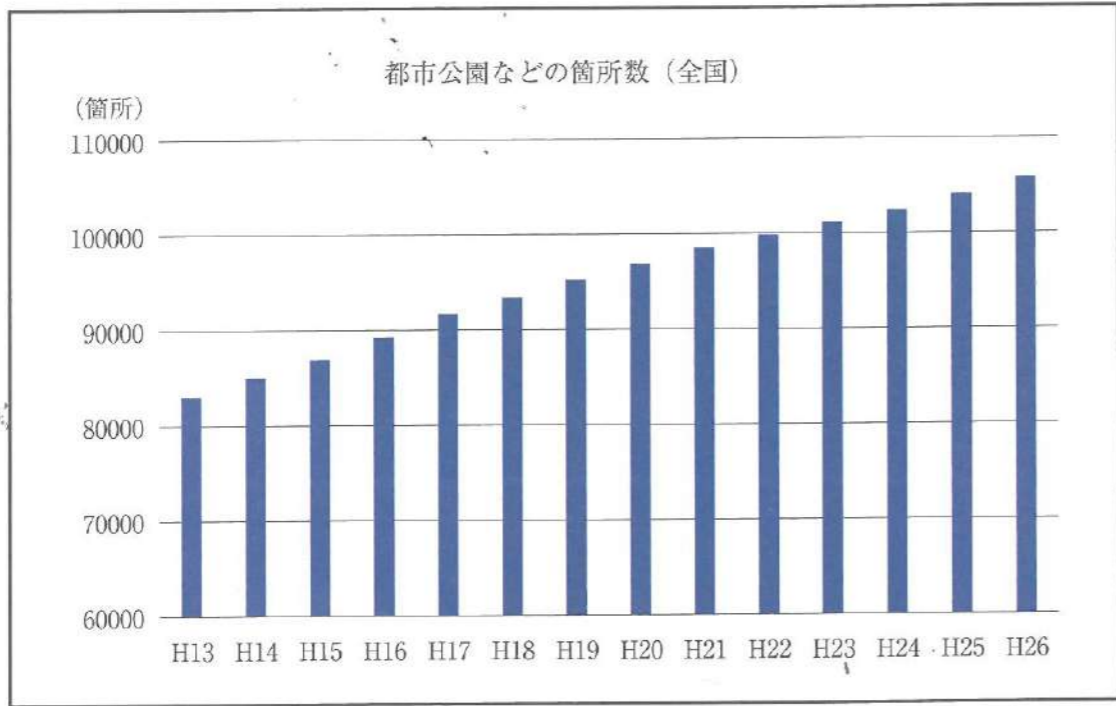
問一 ——— ①とありますが、【資料1】と【資料2】から、どのようなことを読み取ることが出来ますか。その説明として最も適当な

ものを次の中から選び、記号で答えなさい。

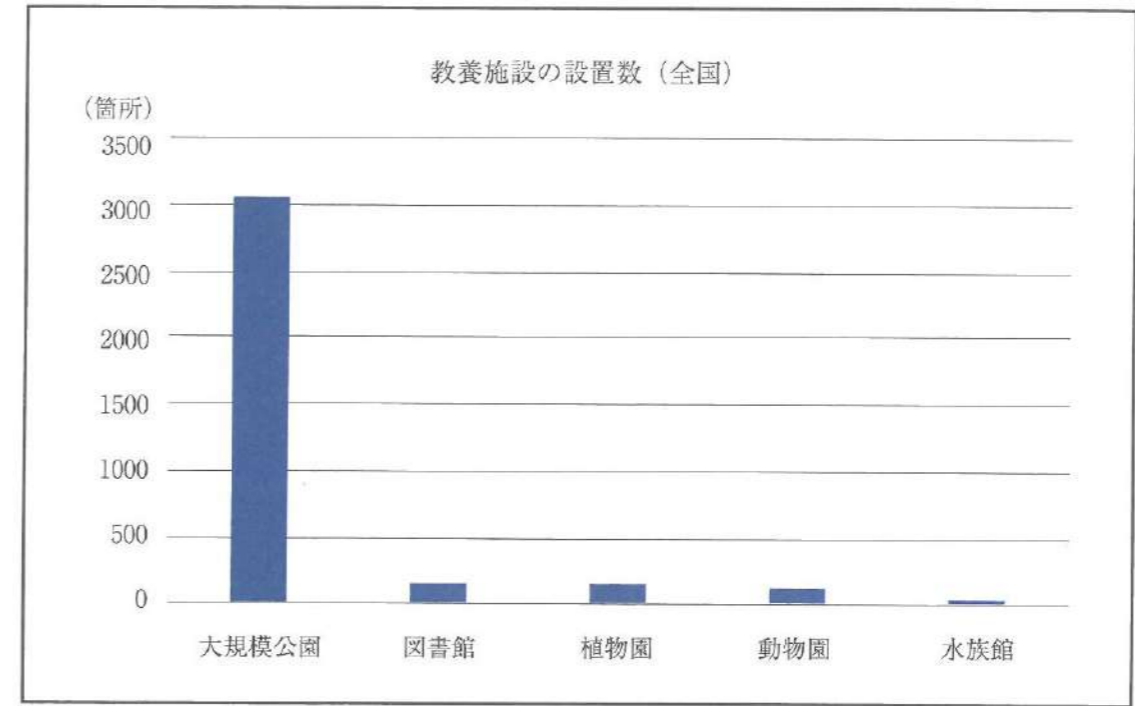
- ア 同じ学年の友達と遊ぶ生徒が圧倒的に多く、また五人に一人の割合で単独で遊んでいる生徒がいること。
- イ 年の差に関係なく交流範囲が広がっており、また五人以上の大勢で遊ぶことができなくなっていること。
- ウ 四人以内の少人数で遊ぶ生徒が九割を超えており、また兄弟姉妹を除けば他学年の生徒と交流が少ないこと。
- エ 二人以内で遊ぶ生徒が過半数近くに達しており、また兄弟姉妹と過ごす時間を大切にしている生徒が多いこと。

問二 ——— ②とありますが、【資料3】と【資料4】から、どのようなことを読み取ることが出来ますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

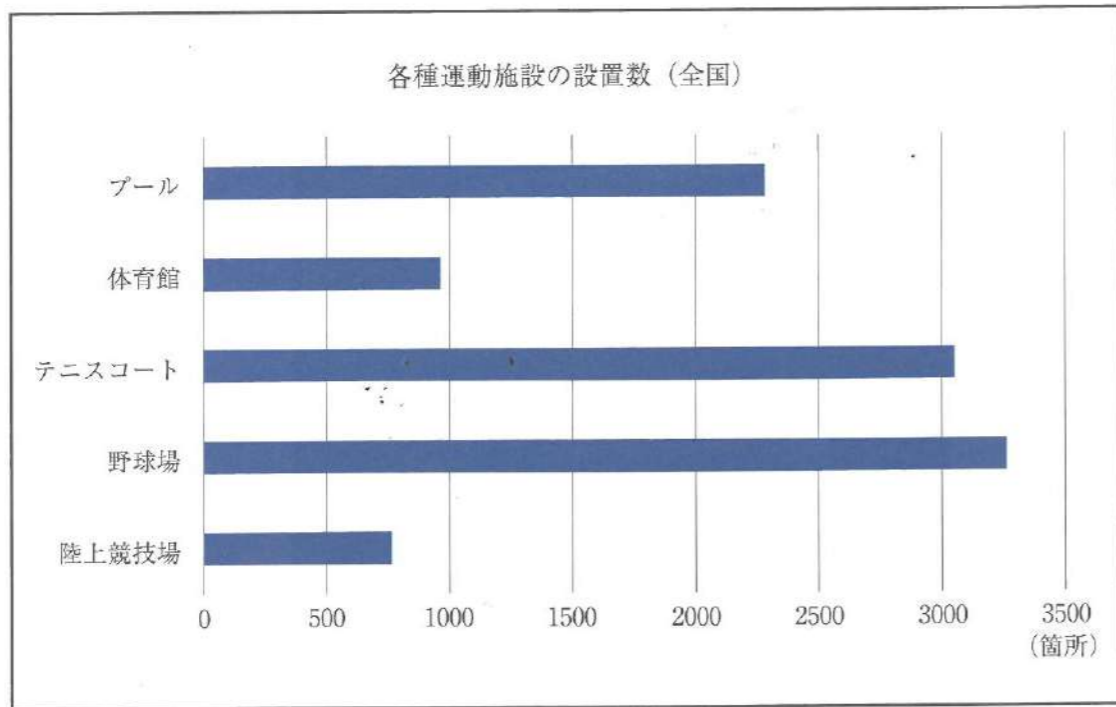
- ア 屋内でゲームなどで遊ぶ機会が多くなっているが、屋外で体を動かして遊んでいる生徒も多い。
- イ 自宅で遊んでいる生徒が多く、外で体を動かす遊びにはほとんど興味を持っていない。
- ウ 小学校や公園などの公共の場所はほとんど遊びに使われず、自宅でゲームをする生徒が多い。
- エ 友達と仲良く遊ぶことのできる生徒が多く、男子は外遊び、女子は屋内での遊びをしている。



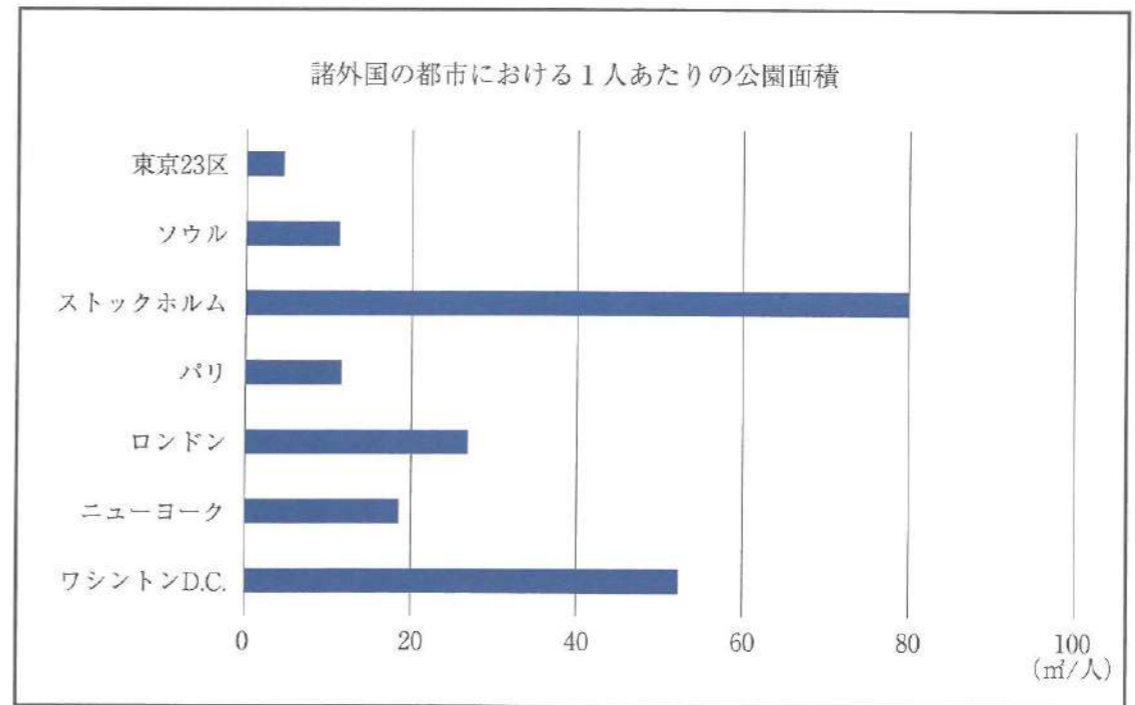
ウ



ア



エ



イ

問三 ——— ③とありますが、この発言の誤りを指摘するにはどのような資料が必要ですか。最も適当なものを次の中から選び、ア～エの記号で答えなさい。

問四 — ④とありますが、【資料6】の「子供が自由に遊べる空き地や生活道路が少なくなった」という意見に最も関わりの深い写真を次の中から選び、ア～エの記号で答えなさい。



問五 — ⑤とありますが、【資料7】の「保護者の回答」のうち、(1)～(3)は【遊びの効果メモ】のどの項目に当てはまりますか。【遊

- びの効果メモ】のA～Cの中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。
- (1) ものを作ることに興味を持つようになった。
 - (2) 他クラス、他学年の子と遊ぶようになった。
 - (3) 逆上がりができるようになった。

【遊びの効果メモ】

- (A) 社会性・協調性・人間関係能力 (B) 体力・運動能力 (C) 自主性・創造性

問六 — ⑥とありますが、【資料7】の「保護者の回答」(4)・(5)について、どのように対応すべきですか。その対応例として明らかに誤っているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア (4)については、「わくわく広場」の終了時間を18時から17時30分に変更して、生徒を早く帰宅させる。
- イ (4)については、生徒に複数人で帰宅することを呼びかけ、安全や防犯に対する生徒の意識を高める。
- ウ (5)については、「遊びの助っ人」や「見守り隊」をやめ、生徒を自由に遊ばせて大人は全く関わらないようにする。
- エ (5)については、「遊びの助っ人」が生徒・保護者に好評であることやその効果や意味を写真付きの記事にして伝える。

問七 — ⑦とありますが、太郎さんの提案にはどのような効果があると考えられますか。説明しなさい。

